

時代を先取りする環境装置

リョーシン 業界の人材不足 解消に貢献

各種廃棄物処理装置の製造・販売・設置を手掛けるリョーシン(富山市、高野治社長、076・465・6050)は、海外の先端リサイクル技術を活用した再資源化プラントシステムを開発。選別困難な混合廃棄物の処理と省人化を同時に実現し、廃棄物処理・リサイクル業界で顕在化しつつある人材不足リスクへの対策に貢献していく考えだ。

同社では、国際マーケットで定評のある環境装置メーカーとパートナーシップを結んでおり、オーストリアの破砕機メーカー・リンドナー社や、オランダの風力選別機メーカー・ニホット社など、世界各国の多様な処理装置を取り扱う。さらに、それらの装置を組み合わせて、一連のプラントとして提案。ユーザーのニーズに合わせた最適なリサイクルシステムを構築する態勢を整えている。

直近で、特に増えている相談が廃プラの選別処理だ。中国の固形廃棄物貿易規制だけでなく、日本国内におけるプラスチックリサイクル循環戦略への関心も高く、マテリアルリサイクルや燃料化などの引き合いが数多く寄せられているという。具体的な導入事例としては、福岡県内リサイクル事業者向けの、

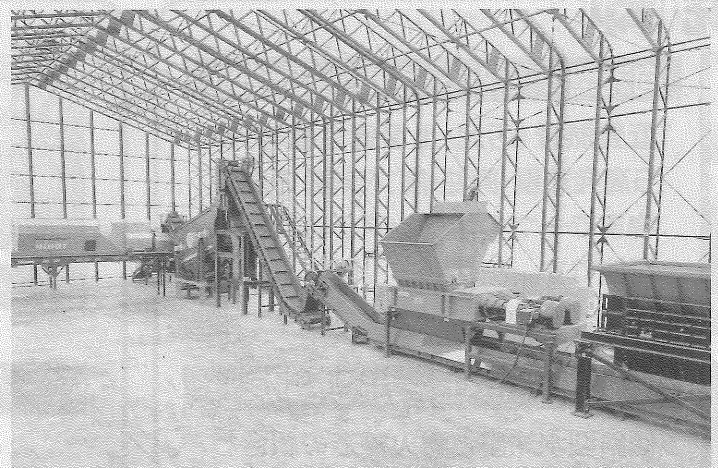
事業系廃プラのフラフ燃料化プラントがある。同施設では、事業系廃棄物を破砕選別し、セメント会社向けのフラフ燃料を製造。処理フローとしては、まず二軸破砕機で粗破砕後、振動スクリーンでふるい、粒度ごとに50ミルオーバー品、8ミル品、8ミル品と3種にサイジングする。オーバー品と中間サイズ品はそれぞれ風力選別により金属類などの重量物とプラスチックなどの軽量物に選別。軽量物はさらに一軸破砕機で細破砕し、最終的にベアリングして燃料として出荷する。

同施設の特徴は、大量処理と高精度選別を両立することで、現場の省人化も同時に図っている点だ。導入した施設では、日量50トンの処理を3人の従業員で達成しており、高速で処理ができるため営業

時間内に作業を終えることができ、働き方改革にもつながっているという。廃プラに並んで引き合いが強いのは、やはりリ建設系混合廃棄物だ。同社ではAI選別ロボット「AI Ben



リンドナー社一軸破砕機



リニューアルしたデモスペース

「人口減少が進む日本では、人材不足がリサイクル業者の最大リスクと考えられている。人手を掛けずに大量選別できるプラントを提案することで課題解決に取り組むだけでなく、ユーザー企業の成長につながることもわかれわかれの使命だ」と話すのは、同社の高野社長。ただ装置を売ることを目的としたメーカーから脱却し、ユーザーや社会の持続可能性に貢献できるソリューション企業として展開していく考えだ。

そつした狙いをより広く伝えるべく、9月には同社ホームページをリニューアル。また、本社に併設するデモスペースもリニューアルし、これまで単体の装置ごとにテストしていたものを、一連のラインとしてテストできる態勢を整えたという。高野社長は「今後も社会や業界の課題を捉え、テーマ性を持って、ユーザーのための装置を発掘していきたい」とした。